

医療関係者用

ディビゲル<sup>®</sup>1mgを処方される患者様への説明用資料

# 更年期障害 診療ガイド

監 修

独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京山手メディカルセンター

院長 矢野 哲 先生

# 更年期障害について

## ●どんな症状があるの？

更年期(閉経の前後 約5年間、45～55歳頃)には女性ホルモンの分泌が急激に減少することなどにより、さまざまな更年期症状があらわれます。

### 主な症状



## ●どうやって評価するの？

「更年期症状評価表」により、更年期症状を把握したり、治療の効果を判定することができます。

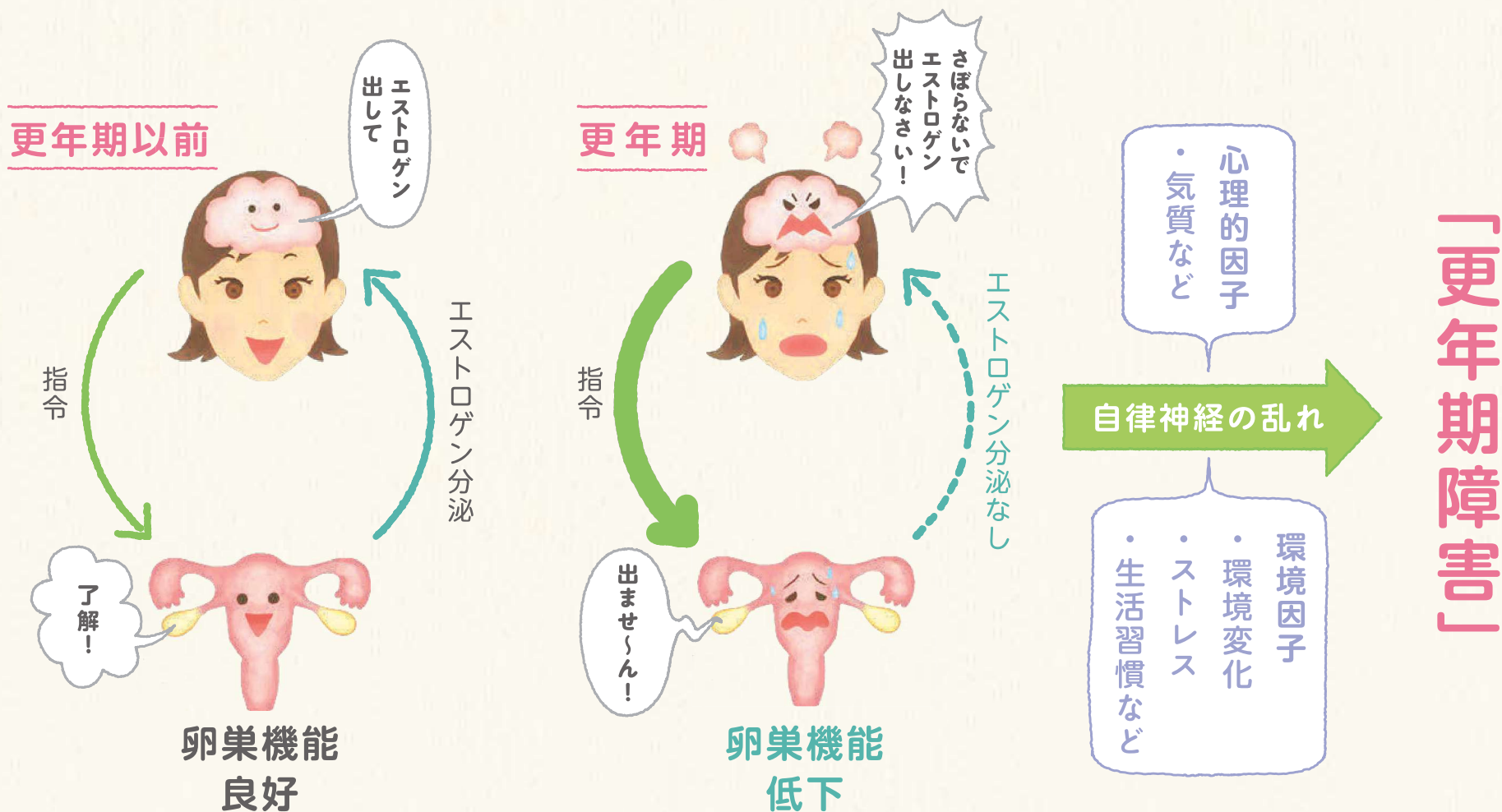
### 更年期症状評価表

症 状	症状の程度		
	強	弱	無
1. 顔や上半身がほてる(熱くなる)			
2. 汗をかきやすい			
3. 夜なかなか寝付かれない			
4. 夜眠っても目をさましやすい			
5. 興奮しやすく、イライラすることが多い			
6. いつも不安感がある			
7. ささいなことが気になる			
8. くよくよし、ゆううつなことが多い			
9. 無気力で、疲れやすい			
10. 眼が疲れる			
11. ものごとが覚えにくかったり、物忘れが多い			
12. めまいがある			
13. 胸がドキドキする			
14. 胸がしめつけられる			
15. 頭が重かったり、頭痛がよくする			
16. 肩や首がこる			
17. 背中や腰が痛む			
18. 手足の節々(関節)の痛みがある			
19. 腰や手足が冷える			
20. 手足(指)がしびれる			
21. 最近音に敏感である			

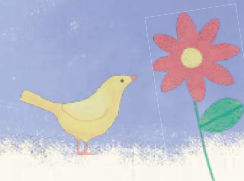


## ● なぜ更年期障害が起こるの？

更年期障害は、女性ホルモン(エストロゲン)が減少して自律神経機能が乱れることにより起こります。



# 更年期障害の薬物療法

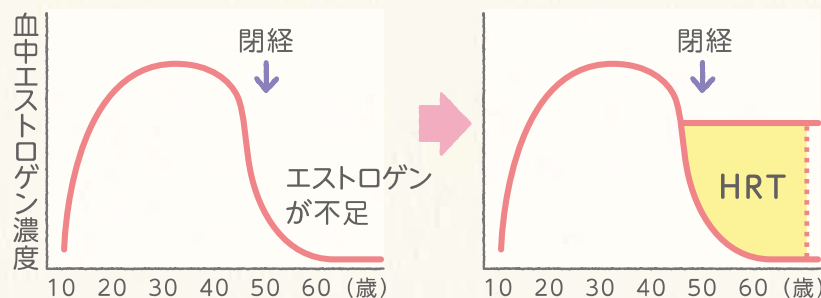


## 対象となる方

- のぼせ、発汗など明らかなエストロゲン欠乏症状がある方
- エストロゲン欠乏に伴う骨粗鬆症の治療を期待できる方

## ホルモン補充療法 (HRT: Hormone Replacement Therapy)

### ● エストロゲン分泌とHRTの目的



HRTは  
エストロゲンの  
不足を補う治療です

- ホルモン補充療法が受けられない方
- 原因不明のほてり、のぼせなどの不定愁訴がある方

## 漢方療法

- うつ、不安、不眠などの症状がある方

## 抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬





# ホルモン補充療法 ～投与方法～



## エストロゲン単独療法（子宮を有さない女性）

持続的投与方法\*

エストロゲン製剤



間欠的投与方法\*

エストロゲン製剤



## エストロゲン・黄体ホルモン併用療法（子宮を有する女性）

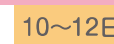
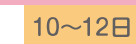
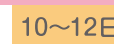
(1) 周期的併用投与方法\*\*

1) 間欠法

エストロゲン製剤



黄体ホルモン製剤

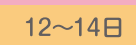
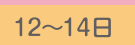


2) 持続法

エストロゲン製剤



黄体ホルモン製剤



(2) 持続的併用投与方法\*\*\*

エストロゲン製剤



黄体ホルモン製剤



エストロゲン・黄体ホルモン配合剤



\*：黄体ホルモンによる不安や抑うつなどの問題が回避できる。

\*\*：定期的な出血がみられる。また、持続的投与方法に比べて大脳血流量が増加し、脳機能に好影響を与える。

\*\*\*：投与初期に不正出血がみられるが、継続することによって減少する。

# ホルモン補充療法 ～HRT前、HRT中、HRT後の検査～



<h2>HRT前</h2>	<p>〈必須検査項目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血圧、身長、体重</li> <li>・ 血算、生化学検査(肝機能、脂質)<sup>1)</sup>、血糖</li> <li>・ 内診および経膈超音波診断、子宮頸癌検診(6か月以内)、子宮内膜癌検診(6か月以内)<sup>2)</sup></li> <li>・ 乳癌検診<sup>3)</sup></li> </ul>	
<h2>HRT中</h2>	<p>年に1～2回</p>	<p>〈必須検査項目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血圧、身長、体重</li> <li>・ 血算、生化学検査(肝機能、脂質)<sup>1)</sup>、血糖</li> </ul>
	<p>1年ごと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内診および経膈超音波診断、子宮頸癌検診、子宮内膜癌検診<sup>2)</sup></li> <li>・ 乳癌検診<sup>3)</sup></li> </ul>
<h2>HRT後</h2>	<p>HRT終了後5年までは、1～2年ごとに婦人科癌検診と乳房検査を推奨する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内診および経膈超音波診断、子宮頸癌検診、子宮内膜癌検診<sup>2)</sup></li> <li>・ 乳癌検診<sup>3)</sup></li> </ul>	

1)ALT、AST、LDH、T-Chol or LDL-C、TG、HDL-C(Ca、P、ALP、CPK、Crはオプションとする)。

血算、生化学検査、血糖については、約6か月以内に特定健康診査やドックにて検査済みの場合には代用可。

2)原則的には子宮内膜細胞診(組織診)を行う。ただし病理学的検索が困難または不可能な場合には経膈超音波診断法で子宮内膜厚を測定する。

3)画像検査(マンモグラフィーまたは超音波診断など)を行う。



# ホルモン補充療法 ～お薬の種類～

## 飲み薬



### 代表的な使用方法

1日1～2錠服用する

## 塗り薬 (ゲル)



### 代表的な使用方法

1日1回、左右どちらかの  
大腿部または下腹部  
などに塗る

## 貼り薬 (パッチ)



### 代表的な使用方法

1枚を下腹部または  
臀部に貼り、2日ごとに  
貼りかえる

## 腔坐薬※



### 代表的な使用方法

1日1回、腔内に挿入する

※萎縮性膣炎などに対する  
局所療法として用いられる

# ディビゲル®1mgの使い方



- ゲル状のエストロゲンのお薬です。
- 更年期障害の諸症状を改善します。
- 皮膚から吸収されて作用します。

## ● 塗り方

### 1 開封する

お薬が入っている小袋を  
図のようにタテに持ち、  
切れ目に沿って完全に  
切り取って下さい。



- ・お薬を塗る前に手をよく洗い、お薬を塗る場所をよく拭いて、水分や汚れを十分に取り除いて下さい。
- ・なるべく毎日同じ時間に塗るようにして下さい。

### 2 しぼり出す

左右どちらかの太もも、  
または下腹部に直接、  
もしくは手にしぼり出し、  
中のお薬を使い切して下さい。



- ・お薬を塗る場所は、なるべく毎日変えることをお勧めします。

### 3 塗り広げる

速やかに、400cm<sup>2</sup>程度(例:20cm×20cm)に  
均一に塗り広げて下さい。



- ・十分な効果を得るために、塗り広げる面積をお守り下さい。
- ・塗り広げたら、こすらずに自然に乾かして下さい。(強くこすりすぎると消しゴムのカスのようにポロポロとはがれることがあります。)
- ・お薬を塗った後は手をよく洗って下さい。

※保湿クリーム、日焼け止めクリームなどはお薬を塗った場所に同時に使用しないで下さい。お薬が乾いた後で使用して下さい。





## ● ご使用時の注意

### 塗るときの注意

- キズ、湿疹・皮膚炎等（ひどい乾燥や日焼けなども含む）がある場合は、お薬がその場所に触れないように注意して塗って下さい。
- 胸、顔、外陰部や粘膜には塗らないで下さい。
- 目に入らないように注意して下さい。目に入った場合は、すぐに流水で洗い流して下さい。

### 塗った後の注意

- 数分間乾かして下さい。また、塗った場所は1時間以内に洗浄しないで下さい。
- 塗った直後は塗った場所を他人に触れさせないで下さい。
- このお薬はアルコールを多く含んでいるため、塗った後は十分換気を行い、お薬が乾くまで火気あるいは喫煙を避けて下さい。
- 保湿クリーム、日焼け止めクリームはお薬を塗った場所に同時に使用しないで下さい。

### 保管上の注意

- お子さまの手の届かないところに保管して下さい。
- 捨てる際にもお子さまが誤って触れない（塗らない、口にしない）ように注意して下さい。
- 車の中や直射日光のあたる場所など、高温を避けて保管して下さい。

### その他の注意

- 飲用しないで下さい。
- アルコール過敏症の方では、お薬に含まれるアルコールによって、かぶれや発疹などの過敏症状があらわれることがあるため、注意して下さい。

なにか異常が認められた場合にはお薬の使用を中止し、すぐ医師にご相談下さい。



お風呂、シャワー、プールなどは  
1時間経ってから!



## ホルモン補充療法の禁忌症例と慎重投与症例

禁忌症例	慎重投与ないしは条件付きで投与が可能な症例	
・重度の活動性肝疾患	・子宮内膜癌の既往	・重症の高トリグリセリド血症
・現在の乳癌とその既往	・卵巣癌の既往	・コントロール不良な糖尿病
・現在の子宮内膜癌、低悪性度子宮内膜間質肉腫	・肥満	・コントロール不良な高血圧
・原因不明の不正性器出血	・60歳以上または閉経後10年以上の新規投与	・子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症の既往
・妊娠が疑われる場合	・血栓症のリスクを有する場合	・片頭痛
・急性血栓性静脈炎または静脈血栓塞栓症とその既往	・冠攣縮および微小血管狭心症の既往	・てんかん
・心筋梗塞および冠動脈に動脈硬化性病変の既往	・慢性肝疾患	・急性ポルフィリン症
・脳卒中の既往	・胆嚢炎および胆石症の既往	・全身性エリテマトーデス (SLE)

注意) デイビゲル®1mgをご処方の際には、電子化された添付文書（略称：電子添文）に記載の「禁忌を含む注意事項等情報」もご参照下さい。

日本産科婦人科学会・日本女性医学学会・ホルモン補充療法ガイドライン 2017年度版